

父親への手紙

自身の現状を深く見つめた結果、私は留学に行く事に決めました。

競争社会の中で、自分自身とこの家系がどのように存続するべきかを深く考えた結果

自分自身が栄え、家族が栄え、地域と共に発展していかなきゃいけないと強く思っています。

このような喜びを共有することは、先祖が遺した教えであり、私も常に心の中に持ち続けています。

私が最初に英語と中国語を勉強したのは、世界に対して大きな影響を持っている言語という理由でしたが、

今後の日本の自立と安定を願うには、他国の協力が必要不可欠で、ベトナムは日本にとって最重要国の1つであると考えています。

英語と中国語を学ぶ為に自分自身で働き、お金を蓄え、これまで努力と最善を尽くしましたが、

圧倒的な経済支援を受ける周りの人達との競争は厳しく、自分自身の状況も、社会的な立場も私に有利ではありません。

その上、このまま現状通りに人生を進めば、経済的にも家系の滅亡に繋がると考えており。

何も手を打たなければ、私自身の衰退を招くだけでなく、我が家系も滅亡してしまう事となります。

そんなことになってしまえば、多くの未来の繁栄を築き、現代までバトンを繋げてきた先祖の霊に、私はどう謝罪をすればよいのか分かりません。

先祖が今の我が家の現状を顧みて、どう思っているのか？想像するだけで胸が痛くなります。

そこを考えるだけで申し訳が立たなく、だからこそ行動が必要だと考えています。

このような考えや想いが、留学に行き周りに絶対に負けない能力を手にする。そして社会に貢献できる人間へと成長したいという考えに至りました。

昨日親父に罵声を浴びせた事に対して、悪い事をしたという罪悪感があります。私は真剣に家族の現状を見つめているからこそ、出てしまった罵声だと理解して頂きたいです。

今後ベトナムの人口は1億人を突破する事になり、益々経済発展していく事になります。

東アジアの平和と安定の為に、日本に協力してくれる友好国であるベトナムに対して私は感謝でいっぱいです。

今後の発展と繁栄という未来を見るベトナムは希望に溢れています。

その為に、これから私にとってベトナムで学ぶ事は非常に大切な事だと考えています。

「定職に就け」という私の周囲の方々が、私に対して思っている事も私は深く理解しています。

それでも私は時代の運命と自分自身の可能性を信じて、これからもずっと続いていく未来の為に留学という道を歩みます。

私はそこで自分自身の存続を守り、家系の明るい未来を信じ、常に希望と共にある事を信じています。

私の留学という選択の責任は重く、道は遠いことも心に留めています。

この留学を未来の繁栄の為に傾け、道義を大切にして時代の流れに遅れないようにしたいです。

これらが私の意志だと思い、見届けてください。